

# PC 入力を使用した韓国語教育法

## －初歩段階におけるハングル入力－

申 英 秀

### 1. はじめに

2002年のサッカーワールドカップの日韓共催を契機に、それまでよりも緊密に両国間の文化的交流が民間レベルを含め盛んに行われることとなったことは、まだ記憶に新しいことである。これは、韓国政府による1998年1999年の2回次にかけて行われた文化交流の開放措置（特に日本語・日本文化を対象とした開放措置）による後押しも考慮される。1988年に行われたソウルオリンピックを契機に臨時措置として行われた日本人への韓国入国観光ビザの一時的な廃止が（ビザなしによる入国許可）事実上一般化し、上記のワールドカップ共催までの間に、韓国人による日本渡航への制限もこれに合わせ事実上緩和された。これらの状況を受け、日本における高等教育での韓国語<sup>1)</sup>教育も、広く大学の一般教養課程、高等学校の選択外国語として定着しつつある<sup>2)</sup>。大型書店では韓国語のコーナーが設けられ、誰でも手軽に自分の程度や目的にあった韓国語の学習書籍を選択購入することが可能となった。「冬ソナ」現象（韓流）と呼ばれる主婦層にまで拡大した韓国語学習熱もようやく一定のレベルで落ち着いてきたように感じられる。また例年、一般教養科目の外国語として韓国語初級を選択した大学生に行っているアンケートによれば、ここ数年、習得目的の多様性が見られるようになった。いわゆる「ゆとり教育」第1世代が今春大学を卒業していったが、中等教育によるPC使用法の初歩学習を受けた学生を受けて、大学における韓国語教育の新しい段階が模索されるようになった。こうした状況を鑑みて、ここ数年「韓国語初級」のカリキュラムにPC入力を使用した韓国語習得のプログラムを挿入していたが、昨年度より各大学の協力を得て、全面的にPC入力を使用した初級韓国語カリキュラムを作成して実施している。本稿ではその内容について報告し、

諸先学の御教示を仰ぐものである。

## 2. 従来の韓国語学習の問題点から見た PC 入力を使用した韓国語習得の利便性と問題点

PC 入力を使用した韓国語教育はまた使用する教材の問題でもある。すでに野間秀樹氏も指摘されている如く<sup>3)</sup>、多くの韓国語学習教材が存在しているにもかかわらず、現段階では類型化された韓国語学習者の学習目的にあった教材が十分に提供されているとは言えない状況である。野間氏によれば<sup>4)</sup>、日本における日本語話者の韓国語学習対象者は、1) 韓国語を専攻として本格的に学ぶ大学生、2) 第2、第3外国語として学ぶ大学生、3) 外国語科目として学ぶ、4) 職業上必要とする社会人、5) 趣味で学ぶ学習者、6) 在日韓国人として民族教育機関で学ぶ学生、7) 在日韓国人として個人的に学ぶ学習者に分類される。今回適用される韓国語学習対象者は、2) の第2、第3外国語として学ぶ大学生である。また、野間氏は教材の種類にも言及され<sup>5)</sup>、1) 入門書(第2、第3外国語用及び市民講座用)、2) 初級 書き方(作文)教材、3) 初級 話し方(会話)教材、4) 初級 読み方(読解)教材、5) 初級 聞き方(聴取)教材、6) 初級、中級 漢字音・漢字語 教材、7) 中級 書き方(作文)教材、8) 中級 話し方(会話)教材、9) 中級 読み方(読解)教材、10) 中級 聞き方(聴取)教材、11) 初級、中級 語彙教材、12) ハングル書き方(ペン字)教材、13) 文法教材に分類されたが、1冊の教材で総合的に初級段階を学習させるためには、実際には教員が副教材としてプリントを準備せざるを得ないのが現状であると言えよう。実際に、一般教養課程での教材費支出の割り合いを高めることは難しく、第2、第3外国語における習熟度基準の決定の難しさを実感させる問題といえよう。PC 入力を使用した韓国語教育法においては、文字を書かない新しい世代に対応させるという意味で、「書き方」を廃止し、「PC 入力」という方法で韓国語の文字と言語を習得する方法を採用した。横書きが主流である現在の韓国語の文章構造は、PC 入力という手段を得て、より利便性が図られた。現在は発展途上であるため、一時的にテキストをプリントして配布しているが、将来的には Web 上での公開に留め、

授業中に作成した自分の授業用ファイルが韓国語を習得する自分のテキストとして、個人の学習目的に沿ったテキストを各自所有する利便性を持つものとする。各自のファイルは現在学期毎の提出となっているが、将来的には単元ごとの提出を図り、さらに利便性を高めたい。

宋結儀氏は現代の韓国社会において、ハングル（文字）学習の主たる教材である反切表が、ハングル教育から次第に離れていき、20世紀中盤以降完全に消えてしまった状況について考察された<sup>6)</sup>。反切表が消滅してしまった理由として、宋氏は「新式教育の導入に従い、言語（韓国語）教育方法が変化し、韓国語の表記法が音素的表記法から形態音素的表記法に変わり、音韻変化等により反切表の効用が減少したためと捉え」られた<sup>7)</sup>。ところが、現在の日本での韓国語初級のハングル学習過程でのほとんどのテキストが、反切表を使用するか、反切表の順番で母音、子音の文字・発音の学習を行っている。初級の最も重要な時期に、現在の複雑な韓国語の教育をするにあたり、伝統時代の文字学習法を使用せざるを得ないことは、母国語ではない外国語学習の困難さを物語っている。PC入力を使用した韓国語教育法では、キーボード配置（KS ボル2＝韓国内で使用している正規の韓国語キーボード配置、Windows 用）によって文字と発音を習得させる。日本におけるキーボード入力は、ワードプロセッサの普及によるかな入力から、PC入力に一般的なローマ字入力に移行し定着しつつある。現在公立中学校におけるPC入力はほぼローマ字入力で固定し、これを学習してきた学生たちにとって、キーボード上の位置関係による文字の区分は非常に受け入れやすい思考であり、学習上の利便性が高められる。また従来の学習法で最も困難とされる「ハングル文字を書く」という行為が無くなったことによって、より早くハングルに習熟する利便性が得られたと考える。特に「KS ボル2」システムにおいて、子音は破裂音・鼻音ごとに整理され、母音は反切法による基本母音10字を基準としており、続く学習過程で二重母音の構造、陽母音、陰母音、中性母音の別が判るように配置されており学習の利便性を高めている。またOSをWindowsに限った場合、コントロールパネルからハングル入力の設定を容易に行うことができ利便性が期待できる<sup>8)</sup>。

初級における韓国語学習の一つとして、韓国語での外国語表記法（ここでは日本語）からのアプローチという考え方がある。韓国語学習対象者が慣れ親しんだ日本語の表記を韓国語で見たときのように感じているかを学習することは韓国語の構造を学ぶ上で大切である。韓国の「外来語表記法」における日本語のハングル表記（表1参照）にある問題点については、すでに金泰虎氏が詳細に検討しておられるごとく、「現行のハングル表記は、実際の日本語の発音とは乖離がある」という問題がある<sup>9)</sup>。しかし、一方でその問題を指摘しつつ、なるべく簡易に日本語（文）がハングルで表記できれば、中学生がローマ字で日本文を書いて遊ぶようにハングルを入力することに習熟させることが、PC入力を使用した韓国語教育法の利便性である。2000年に制定され直した韓国語のローマ字表記法については、すでに金珍娥氏がその問題点を詳細に検討されている<sup>10)</sup>。しかし、金氏も指摘されているように、「韓国語のローマ字表記を知ることは、日本語と韓国語の音の構造の違いはもちろん、日本語の仮名表記と韓国語のハングル表記の構造の違いを、ローマ字という第三の文字を通して知ることへつながる。それはさらに、ことばを、言語音を文字で表す原理を知る糧にもなるであろう」<sup>11)</sup>と考えられる。そういった意味で、もっともローマ字の構造とハングルの構造を比較検討しやすい学習法として、PC入力を使用した韓国語教育法は適していると考えられる。これに関連して、カタカナ発音表記を導入し、さらに利便性をあげる。カタカナ表記についての考察は、すでに熊谷明泰氏が述べられているが、「そもそも日本語表記のために作られたカタカナで朝鮮語の発音を正確に表記することなど不可能である以上、禁欲的に表記方法を考えることが求められるのである。朝鮮語発音をより正確に表記したいという思いが先走るばかりに、さまざまな工夫をめぐらし、その結果、朝鮮語を知らない人にとっては難解な表記法を生み出すような落とし穴に落ち込まないように、心しなければならぬ」<sup>12)</sup>ことが重要であろう。この点に関しても、PC入力を使用した学習法の利便性は際立っている。

以上、従来の韓国語学習法の問題点に着目してPC入力を使用した韓国語教育法の利便性について述べたが、問題点について列挙し、今後の課題としたい。

1. 当然であるが、この教育法を教える教員にPC入力やPCを使用した教材の習熟性が求められる。

2. 教える大学に相互学習用の PC 環境を備えたシステムの準備が必要である。最低限必要な条件として、学生数分の PC の準備とその内容を閲覧できる教員用の PC 設置があげられる。同時進行性の授業の観点から言えば、相互の発音を個々に伝達できる LL システムがあるとさらに利便性が上がる。ファイルの配布や提出が即座に行えるシステムがあると便利である。校内の PC 上で学生だけが閲覧できる Web 上のクラスやドライブを設けると、テキストや参考資料がダウンロードでき便利である。
3. 学生の予習復習が PC 上で行われるため、校内で必要数の PC 設置が必要である。
4. ハングルを全く書けない学生が出現する。実際には、中級の段階で書き方の指導を導入しており、また、参考資料ダウンロード上では初めからハングルを書きたい学生のために、従来のマス式記入法のプリントを準備をしてはいる。
5. カタカナ表記は、韓国語への関心に対して有用性が高いが、その先の韓国語への変換についていけない学生にとっては難解性が増す可能性がある。
6. 現在のテキストにおいて、2000 年のローマ字表記の改定は入っていない。K と G、T と D、P と B、CH と J の発音の違いを位置によって区別する今次のハングル規定に合わせると初歩の学習者が混乱に陥るからである。GIMPO を「キムポ」、BUSAN を「プサン」と呼ばせることは、将来的には必要であるが、初歩段階においては難しいのが現状である。

このように PC 入力を使用した韓国語教育法は、まだ問題点を多く抱えている。今回は第 1 回目としてハングル入力についての問題であるが、当然、文法上の問題も存在する。しかし、欧文の言語と違い、英語という 6 年間のバックボーンを持たない学生たちにとって、より簡便に学ぶことができ、かつ使用するのに利便性の高いこの学習法は、今後さらに発展していく可能性が高い。一般に公開し、大方の批判を仰ぐ所存である。

### 3. PC を使用したハングル入力環境設定

もっとも最初に行うことは、個人の学生番号などでログインした PC に個人設定としてハングル入力のキーボード設定を行うことである。最初の時間には、従来のカリキュラムと同様に韓国語の歴史、ハングルの歴史を座学で行うが、その際に、次回から USB を持参させることを徹底する。PC による学習法は個人が大学、あるいはその他の個人で使用できる PC 環境でいつでも行えることに利便性がある。ただ、各大学のシステムにより、個人ファイルが保存されない場合があるので、常に USB に保存させ携帯させる必要がある。また、ファイルは当面のところ、マイクロソフト社のワードを使用し、統一させる。

ハングル入力環境設定は、一斉に行い、他での設定に備えさせる。

Windows 上でハングル表記を行う手順は以下の通りである。

- ①左下のスタートから左クリック、
- ②コントロールパネルを左クリック、
- ③「時計、言語、および地域」の中の「キーボードまたは入力方法の変更」を左クリック、
- ④「キーボードの変更」を左クリック、
- ⑤左下の窓に日本語のキーボードしかインストールされていないのを確認して、「追加」を左クリック、
- ⑥画面を下にスクロールして、英語の次、韓国語の「+」を左クリック、
- ⑦「キーボード」の「+」を左クリック、
- ⑧「マイクロソフト IME」および「韓国語」の□にチェック（左クリック）を入れる。右上の「OK」を左クリック、
- ⑨右下の「適用」を左クリック、左下の「OK」を左クリック、
- ⑩左下の「OK」を左クリック、
- ⑪コントロールパネルを閉じる。

※以上の状態で「IME」の左端に「JP」が出たら完了。「JP」を左クリックして「韓国語」を左クリックで使用可能。「KO」が出る。「A」を右クリック「가」を出す。

このままの使用でゴシック体となる。ホームからフォントの選択で「batang」を選べば明朝体になることを説明する。

#### 4. 最初の導入

以下のような、プリントを作成、もしくはファイルを配布する。

##### 【ハングルを読むための簡単な約束】

ハングルはアルファベットのように母音と子音の組合せで読みますので、かな文字のように全ての文字を覚える必要はありません。一方、一つの音を1文字で表わす点はかな文字と同じですが、組み合わせることができるという点では漢字のように作ります。その文字の基本構成は以下の通りです。

例)	<u>ㄱ</u> (K)	+	<u>ㅏ</u> (A)	=	<u>가</u> (KA)
	<u>ㄴ</u> (N)	+	<u>ㅓ</u> (O)	=	<u>노</u> (NO)
	子音		母音		文字

左と上に来るのが母音；漢字の「篇（へん）」位置に相当

右と下に来るのが子音；漢字の「旁（つくり）」位置に相当

ハングルの難しく見せている要素の一つが末音と呼ばれている文字要素です。これは、「っ」のようにはねる音や「ん」のようにつまる音を表わしていますが、日本語と違い種類が多く難しく感じますが、実は日本語にもある音で日本語の場合はそれを表記しないだけなのです。基本的には次の7文字からなり、残りの音はその代表音に吸収されてしまいます。

代表音；「っ」音：ㄱ [k]・ㄷ [t]・ㅍ [p]

「ん」音：ㅇ [ng]・ㄴ [n]・ㅁ [m]

「る」音：ㄹ [l]

※これらの組合せでハングル文字が完成します。

カ ナ	한 글	
	語 頭	語中・語尾
アイウエオ	아 이 우 에 오	아 이 우 에 오
カキクケコ	가 기 구 게 고	카 키 쿠 케 코
サシスセソ	사 시 스 세 소	사 시 스 세 소
タチツテト	다 지 쓰 테 도	타 치 쓰 테 토
ナニヌネノ	나 니 누 네 노	나 니 누 네 노
ハヒフヘホ	하 히 후 헤 호	하 히 후 헤 호
マミムメモ	마 미 무 메 모	마 미 무 메 모
ヤユヨ	야 유 요	야 유 요
ラリルレロ	라 리 루 레 로	라 리 루 레 로
ワヰウヱヲ	와 이 우 에 오	와 이 우 에 오
ン	ㄴ	ㄴ
ガギグゲゴ	가 기 구 게 고	가 기 구 게 고
ザジズゼゾ	자 지 즈 제 조	자 지 즈 제 조
ダヂヅデド	다 지 즈 데 도	다 지 즈 데 도
バビブベボ	바 비 부 베 보	바 비 부 베 보
パピプペポ	파 피 푸 페 포	파 피 푸 페 포
ㄱ		
キャ キュ キョ	가 규 교	카 큐 교
ギャ ギュ ギョ	가 규 교	가 규 교
シャ シュ ショ	샤 슈 쇼	샤 슈 쇼
ジャ ジュ ジョ	자 주 조	자 주 조
チャ チュ チョ	차 추 초	차 추 초
ヒャ ヒュ ヒョ	하 휴 효	하 휴 효
ビャ ビュ ビョ	바 뷰 보	바 뷰 보
ピャ ピュ ピョ	파 퓨 표	파 퓨 표
ミャ ミュ ミョ	마 뮤 묘	마 뮤 묘
リャ リュ リョ	라 류 료	라 류 료

※ 1) 「ㄴ」は通常使用しない。2) 「즈/즈」でも可。

【表1】日本語のカナと한글対照表】

上記表は、韓国文教部告示第 85-11 号 (1986.1.7.) に従った。



각: [k a k] → 「カッカ」と発音する時の「カッ」  
 갓: [k a t] → 「カッタ」      "      「カッ」  
 갑: [k a p] → 「カッパ」      "      「カッ」  
 강: [k a n g] → 「カング」      "      「カン」  
 간: [k a n] → 「カンナ」      "      「カン」  
 감: [k a m] → 「カンマ」      "      「カン」  
 갈: [k a l] → 「カル」

※ (k a l u)ではなくてk a l ;最後の母音は発音しない)

この末音に 0 (ㄹ) 発音である「ㅇ」音が続くと連音現象が起こります。

例) 백원 (ㄹ + ㅇ) → 배원 (ㄹ + ㅇ) = [ㄹㅇ]

paek 0ueon	paegueon	paegueon
------------	----------	----------

アルタイ系統の言語であると言われているハングルは、アルタイ語系の特徴をその発音体系に持っています。その代表的な例が頭音法則ですが、例えば i) 語頭に「R」音が立たないことや、ii) 語頭が濁らないといった特徴があります。

i) 語頭に「R」音が立たないとは、実際には「R」音があっても「R」を発音しないか、別の音になることです。例えば、「李」さんは「리:ri」(リ)さんですが、語頭に立つ時「이:i」(イ)さんとなります。

また、

ii) 語頭が濁らないとは、日本語と違い清音と濁音の違いを位置によって区別するという事です。【表1 日本語のカナと 한글 対照表】を見ていただくと判りますが、語頭と語中・語尾によって清濁の区別があります。ですから「가가」は普通「カガ」と読みます。

※すでに指摘しているように、カタカナ表記が実際の音と乖離していることは先学の指摘の通りである。ただ、ここでは指摘に留め、実際の音を発音していき

ながら学習してもらうこととする。

## 5. キーボードの位置確認と入力作業

キーボード上の音の位置を確認していく作業で、ハンゲルの構造を理解させる。最初に行うことは、カタカナ表記をもってハンゲルを入力する作業である。最初に提示するのは、日本語のカナと 한글 対照表 (表 1) と以下の図である。

【子音】	【母音】
ㄱ(Q) ㅋ(w) ㆁ(E) ㄷ(R) ㅌ(T)	ㅅ(O) ㅈ(P)
ㅊ(Q) ㅍ(w) ㆁ(E) ㄷ(R) ㅌ(T)	ㅕ(Y) ㅊ(U) ㅊ(I) ㅅ(O) ㅈ(P)
ㄹ(A) ㄴ(S) ㅇ(D) ㅍ(F) ㅎ(G)	ㅈ(H) ㅊ(J) ㅊ(K) ㅌ(L)
ㅊ(Z) ㅍ(X) ㅎ(C) ㅌ(V)	ㅅ(B) ㅌ(N) ㅡ(M)

【図 1 K S ボル 2 キーボード配置 1】

### 【特徴】

- |                       |                             |
|-----------------------|-----------------------------|
| ① 第一列：子音→破裂音          | 母音→y 音 (ヨ(ヨ)ヤ) + (エ(エ)イ)    |
| 上部= <b>Shift</b> → 濃音 | <b>Shift</b> → y 音 (イ(エ)イエ) |
| ② 第二列：子音→鼻音+流音+摩擦音    | 母音→o 音 (オ(オ)アイ)             |
| ③ 第三列：子音→有気音          | 母音→u 音 (ユウ(ウ)ウ)             |

この段階で大切なことは、破裂音「カ・タ・チャ・パ」－「サ」の位置関係と母音「アイウエオ」「ヤユヨ」の位置関係である。これから五十音順にハンゲルをいわば、ローマ字のように使用して、ハンゲルを入力する学習を行う。その際に、主要な文字の位置関係を覚えるが、一つの取り掛かりとして、破裂音に慣れることは、その結果 14 単子音中 9 字が把握されるし、双子音まで入れた 19 字構造の中で破裂音を捉えると、19 字中 14 字を把握することとなり利便性に富む。従来の子音分類ではなく破裂音系を一度に覚えられることは、PC 学習法の利点である。最初の導入時に、破裂音の種類と説明は重要である。構造上の特徴として、ハンゲル創成期の以下の表を最初の時間に配布しておく。

【第一列】

※○は日本語にない発音、後述。

パ    ㅍ    タ    カ    サ    ヨ    ⊖    ヤ    ⊕    エ  
 [Q]   [W]   [E]   [R]   [T]   [Y]   [U]   [I]   [O]   [P]  
 ㅂ(p,b)   ㅈ(ch,j)   ㄷ(t,d)   ㄱ(k,g)   ㅅ(s)   ㅕ(yo)   ㅛ(yeo)   ㅑ(ya)   ㅓ(ae)   ㅗ(e)

【第二列】

マ    ナ    ア    ラ    ハ    オ    ⊗    ア    イ  
 [A]   [S]   [D]   [F]   [G]   [H]   [J]   [K]   [L]  
 ㅁ(m)   ㄴ(n)   ㅇ(o)   ㄹ(r)   ㅎ(h)   ㅌ(o)   ㅎ(eo)   ㅓ(a)   ㅣ(i)

【第三列】

カ    タ    ㅍ    パ    ユ    ウ    ⊙  
 [Z]   [X]   [C]   [V]   [B]   [N]   [M]  
 ㅋ(k<sup>h</sup>)   ㅌ(t<sup>h</sup>)   ㅍ(ch<sup>h</sup>)   ㅍ(p<sup>h</sup>)   ㅠ(yu)   ㅜ(u)   ㅡ(eu)

【図2 キーの配置】

構造的特徴：表音文字は、要素的に子音17字と母音11字の28字母からなり、両者を結合して音節単位に書き表した。（※現在下記の字の内、○の3文字は使用していない）

子音字	ㄱ ㅋ ㅇ ㄷ ㅌ ㅍ ㅈ ㅊ ㅍ ㅑ ㅓ ㅕ ㅎ ㅌ ㅎ ㅓ ㅗ
母音字	ㅏ ㅑ ㅓ ㅕ ㅗ ㅛ ㅑ ㅓ ㅗ ㅛ

	基本字	増画字	増画字	変形字
牙音(象牙)	ㄱ	ㅋ		⊖
舌音(象舌)	ㄷ	ㄷ	ㅌ	ㅌ
唇音(象唇)	ㅍ	ㅍ	ㅑ	
歯音(象歯)	ㅅ	ㅈ	ㅊ	⊕
喉音(象喉)	ㅇ	⊗	ㅎ	

【表2 ハングル創成期の字母】

この表の説明として、現在の表音である破裂音の種類として、3通りの発音体系があることが理解できるように説明をする。わかりやすい例として、「ガ」= k a の発音を説明する。平音の「ガ」= k a = 「カ」の発音体系として、増画された「カ」(激音) = k h a = 「カッ」と「カ」(濃音) = k k a = 「ツカ」の関係を説明、以下の表を確認させる。この時、便宜上の表記「ッ」について説明し、実際の発音は一緒に行うことで理解させる。

	k, g 音	t, d 音	p, b 音	s 音	Ch, j 音
平 音	ㄱ	ㄷ	ㅍ	ㅅ	ㅈ
激 音	ㅋ	ㅌ	ㅃ	ㅆ	ㅊ
濃 音	ㄲ	ㄸ	ㅍㅍ	ㅆㅆ	ㅈㅈ

【表3 破裂音表】

この14体系で、「S」音に激音が無いことを確認後、語頭と語中・語尾に来た際に破裂音に2パターンの音の違いが生じることを表1を使用して確認させる。この方法の利点は、この段階では実際に書かない、覚えなが(書く手間は要らないが)、視覚的に相互の関係を把握することにある。このあと、実際に第1列の「R」から左外側に向かって「カ・タ・チャ・パ」が存在することを確認させる。ここで言う「カ・タ・チャ・パ」のキーは「K・T・CH・P」のことであるが、便宜上「カ・タ・チャ・パ」で覚えさせる。キーの英字名称は講師と同時に反復発音させ、小文字で表し下に提示する。破裂音は shift キーと同時に使用した場合大文字で表記し区別する。実際の発音もハングルの下に提示し関係を確認させる。全ての作業は同時に行い、入力と同時に発音を行う。学生にも発音させ、モニターを通して各学生の入力状況を把握する。各PC端末にマイク・ヘッドフォンが付いているシステムでは、発音もチェックする。

ㄱㄱㄱㄱ, ㄷㄷㄷㄷ, ㅍㅍㅍㅍ, ㅅㅅㅅㅅ,  
 ㅋㅋㅋㅋ, ㅌㅌㅌㅌ, chchchch, pppp,  
 rrrr, eeee, wwww, qqqq,

次に、第3列左外側「Z」から「カ・タ・チャ・パ」の激音が存在することを確認させる。→ 平音と逆の向きに配列

ㅋㅋㅋㅋ, ㅌㅌㅌㅌ, ㅊㅊㅊㅊ, ㅍㅍㅍㅍ,  
khkhkhkh, thththth, chhchhchhchh, phphphph,

次に残った「S」音が第1列目「R」の右側に来ることを確認、左外側から入力させる。

ㅅㅅㅅㅅ, 슌스스, ㅇㅇㅇㅇ, ㄱㄱㄱㄱ, 入入入入,  
p p p p, chchchch, t t t t, k k k k, s s s s,  
q q q q, w w w w, e e e e, r r r r, t t t t,

最後に、Shift を使用して、濃音5字が表されることを確認する。

ㅃㅃㅃㅃ, ㅆㅆㅆㅆ, ㅅㅅㅅㅅ, ㅈㅈㅈㅈ, ㅉㅉㅉㅉ,  
pppppppp, chchchchchchchch, tttttttt, ssssssss,  
QQQQ, WWWW, EEEE, RRRR, TTTT,

次に残った子音（第2列）を確認する。第2列は左外側から鼻音が形成されているが、それぞれの破裂音の下に来る形態である。以下の関係から特定の破裂音に特定の鼻音が結びつくことを確認させ、それがキーボード上でそれぞれの下に配置されていることを確認させる。

口の形	開	舌	閉
破裂音	ㄱ ㅋ(k/g)	ㅌ ㄷ(t/d)	ㅍ ㅂ(p/b)
鼻音	ㅇ(ng)	ㄴ(n)	ㅁ(m)
流音		ㄹ(1)	

【表4 末音から見た破裂音と鼻音の関係】

さらに、残った流音「ㄹ」が「F」に、「ㅎ」が「G」の位置に来ることを確認する。

oooooooo, llllll, ooooo, rrrrr, hhhh,  
mmmm, nnnn, 0000, rrrr, hhhh,  
aaaa, ssss, dddd, ffff, gggg,

子音の確認が終わったら、次に母音「アイウエオ」「ヤユヨ」の位置関係を確認する。最初はいくまでもひらがなのハングル表記である。「アイウエオ」はそれぞれ「K L N P H」キーに所属する。これを最初の導入の説明の内容を振り返り、韓国語には0（ゼロ）発音としか呼べない子音が存在することを確認する。さらに日本語のローマ字と違い、母音のみでの表記は出来ないことを指摘し、この0発音を使って「アイウエオ」の入力を始める。ここで、文字としてハングルが成立するために、子音+母音の構造をもう一度確認させる。左手（子音）に右手（母音）の順序は常に一定であることの確認を行う。反復練習を繰り返すことにより、とりあえず「アイウエオ」の場所を把握させる。基本母音は10字、「アイウエオヤユヨ」で8字、「オ」と「ヨ」と「ウ」に日本語にない音がある。それぞれ日本語の音の右隣にある（図2参照）。それに右上部に設けられた「エ」の発音が2字。これだけ左側に日本語に無い字がある。それぞれ表記上の区別をするため、○を付した。一応、確認として「KSボル2」システムは反切表の順に置かれていることを確認する。「K → I → J → U → H → Y → N → B → M → L」の順に「ㅏ → ㅑ → ㅓ → ㅕ → ㅗ → ㅛ → ㅜ → ㅠ → ㅡ → ㅝ → ㅞ」があることを目で確認させる。打って見せても良い。

最初は子音キー+母音キー+スペースキーで単独音を表し、同時にキーボード上のアルファベットも読み上げ小文字で表す。最後に連続して5字ずつ打ち込んで単語化の練習を行う。実際の発音もハングルの下に提示し、構造上の仕組みを理解させる。

아 아 아 아 아 이 이 이 이 이

0a 0a 0a 0a 0a 0i 0i 0i 0i 0i

dk dk dk dk dk dl dl dl dl dl

우 우 우 우 우 에 에 에 에 에

0u 0u 0u 0u 0u 0e 0e 0e 0e 0e

dn dn dn dn dn dp dp dp dp dp

오 오 오 오 오 아 이 우 에 오

0o 0o 0o 0o 0o 0a 0i 0u 0e 0o

dh dh dh dh dh dk dl dn dp dh

아이우에오 아이우에오 아이우에오

0a0i0u0e0o 0a0i0u0e0o 0a0i0u0e0o

dkdlndndpdh dkdlndndpdh dkdlndndpdh

次に「カ行」の入力を行う。破裂音である「カ・タ・チャ・パ」の行は、日本語での濁る、濁らないの確認を行う。最初は単独で行い、次に5字ずつの単語に分け、その場合、「カギグゲゴ」の発音になることを確認し、連続した字を濁らせないためには第3列の激音を使用する必要を確認する。発音上は「カッ・キッ・クッ・ケッ・コッ」となるが、便宜上使用することを確認する。

가 기 구 게 고 가 기 구 게 고

ka ki ku ke ko ka ki ku ke ko

rk rl rn rp rh rk rl rn rp rh

가기구게고 가기구게고

kagigugego kagigugego

rkrlrnprh rkrlrnprh

카키쿠케코 카키쿠케코 카키쿠케코  
k<sup>h</sup>ak<sup>h</sup>ik<sup>h</sup>uk<sup>h</sup>ek<sup>h</sup>o k<sup>h</sup>ak<sup>h</sup>ik<sup>h</sup>uk<sup>h</sup>ek<sup>h</sup>o k<sup>h</sup>ak<sup>h</sup>ik<sup>h</sup>uk<sup>h</sup>ek<sup>h</sup>o  
zkzlnzpz h zkzlnzpz h zkzlnzpz h

濃音もついでに行う。Shiftを押しながらRキーを押す。押していることを大文字で表す。

까 끼 꾸 껌 꼬 까 끼 꾸 껌 꼬  
kka kki kku kke kko kka kki kku kke kko  
Rk Rl Rn Rp Rh Rk Rl Rn Rp Rh

까끼꾸껌꼬  
kkakkikkukkekko  
RkRlRnRpRh

次に「サ行」を行う。表1から「ス」音が「수」でなく「스」であることを確認する。濃音も同時に行う。

사 시 스 세 소 사 시 스 세 소  
sa si seu se so sa si seu se so  
tk tl tm tp th tk tl tm tp th

사시스세소 사시스세소 사시스세소  
sasiseuseso sasiseuseso  
tktlmtpth tktlmtpth tktlmtpth

싸 씨 수 쎌 쏘 싸 씨 수 쎌 쏘  
Ssa ssi ssu sse sso ssa ssi ssu sse sso  
Tk Tl Tn Tp Th Tk Tl Tn Tp Th



싸씨쑤쨌쑤

Ssassissussesso

TkTlTnTpTh

次に派生形として「チャ」を先に扱う。濁り形は「ジャ」、日本語との違いを確認する。「サ行」と同様「쑤」はなく「즈」で代用する。濃音も同時に練習する。

자 지 즈 제 조 자 지 즈 제 조

cha chi cheu che cho cha chi chu che cho

wk wl wm wp wh wk wl wm wp wh

자 지 즈 제 조 자지즈제조

cha chi cheu che cho chajijeujejo

wk wl wm wp wh kwlwmwpwh

자지즈제조 차 치 추 체 초

chajijeujejo chha chhi chhu che chho

wkwlmwpwh ck cl cm cp ch

차치추체초 차치추체초 차치추체초

chhachhichhuchhechho chhachhichhuchhechho chhachhichhuchhechho

ckclncpch ckclncpch ckclncpch

짜 찌 쯔 쨌 쯔 짜 찌 쯔 쨌 쯔

chcha chchi chcheu chche chcho chcha chchi chcheu chche chcho

Wk Wl Wm Wp Wh Wk Wl Wm Wp Wh

짜찌쯔쨌쨌

chchachchichcheuchchechcho

WkWlWmWpWh

次に「夕行」を行う。表1から「タチツテト」が本来「tatituteto」ではないことを確認し、「tachitsuteto」のために、「chi」が「지」、「tsu」は存在しないので「쓰」で代用することを確認する。「夕行」は濁る、濁らないの区別がある、「カ行」と同様、確認する。

다 디 두 테 도

ta ti tu te to

ek el en ep eh

다 지 쓰 테 도 다 지 쓰 테 도

ta chi sseu te to ta chi sseu te to

ek wl Tm ep eh ek wl Tm ep eh

다 지 쓰 테 도 다 지 쓰 테 도

ta chi sseu te to tajisseudedo

ek wl Tm ep eh ekwlTmepeh

다 치 쓰 테 토 다 치 쓰 테 토 다 치 쓰 테 토

tach<sup>h</sup>isseut<sup>h</sup>et<sup>h</sup>o tach<sup>h</sup>isseut<sup>h</sup>et<sup>h</sup>o tach<sup>h</sup>isseut<sup>h</sup>et<sup>h</sup>o

ekclTxcpch ekclTxcpch ekclTxcpch

次に「ナ行」「ハ行」を行う。

나 니 누 네 노 나 니 누 네 노

na ni nu ne no na ni nu ne no

sk sl sn sp sh sk sl sn sp sh

나 니 누 네 노 나 니 누 네 노 나 니 누 네 노

naninuneno naninuneno naninuneno

skslsnspsh skslsnspsh skslsnspsh

하 히 후 헤 호 하 히 후 헤 호

ha hi hu he ho ha hi hu he ho

gk gl gn gp gh gk gl gn gp gh

하히후헤호 하히후헤호 하히후헤호

hahihuheho hahihuheho hahihuheho

gkglngpgh gkglngpgh gkglngpgh

次に「ハ行」に関連して「パ行」を行う。合わせて「パ行」の濁りが「バ行」となるので、合わせてその発音を確認する。また、濃音も一緒に扱う。

바 비 부 베 보 바비부베보 바비부베보

pa pi pu pe po pabiubebo pabibubebo

qk ql qn qp qh qkqlnqpqh qkqlnqpqh

파 피 푸 페 포 파피푸페포 파피푸페포

p<sup>h</sup>a p<sup>h</sup>i p<sup>h</sup>u p<sup>h</sup>e p<sup>h</sup>o p<sup>h</sup>ap<sup>h</sup>ip<sup>h</sup>up<sup>h</sup>ep<sup>h</sup>o p<sup>h</sup>ap<sup>h</sup>ip<sup>h</sup>up<sup>h</sup>ep<sup>h</sup>o

vk vl vn vp vh vkvlvnpvh vkvlvnpvh

빠 뵤 뿌 뵤 뵤 뵤 뵤 뵤 뵤 뿌 뵤 뵤 뵤 뵤 뵤 뵤 뵤 뿌 뵤 뵤 뵤 뵤 뵤 뵤

ppa ppi ppu ppe ppo ppa ppi ppu ppe ppo ppa ppi ppu ppe ppo

Qk Qi Qn Qp Qh Qk Qi Qn Qp Qh Qk Qi Qn Qp Qh

次に「マ行」を行う。

마 미 무 메 모 마미무메모

ma mi mu me mo ma mi mu me mo

ak al an ap ah ak al an ap ah

마미무메모 마미무메모 마미무메모  
mamimumemo mamimumemo mamimumemo  
akalanapah akalanapah akalanapah

次に「ヤユヨ」と「ラ行」を行う。日本語との違いとして、「ヤユヨ」が母音として0子音を伴うことに注意する。

야 유 요 야 유 요 야유요 야유요  
Oya Oyu Oyo Oya Oyu Oyo OyaOyuOyo OyaOyuOyo  
di db dy di db dy didbdy didbdy

야유요 라리루레로 라리루레로  
OyaOyuOyo ra ri ru re ro ra ri ru re ro  
didbdy fk fl fn fp fh fk fl fn fp fh

라리루레로 라리루레로 라리루레로  
rarirurero rarirurero rarirurero  
fkflfnfpfh fkflfnfpfh fkflfnfpfh

最後に「わをん」を行う。「ワ」は「ウァ」、「ヲ」は「ウォ」を元に二重母音を使用する。

와 와 와 워 워 워 와 워 와 워 윈  
Ooa Ooa Ooa Oueo Oueo Ooa Ooa Oueo Ooa Oueo Oueon  
dhk dhk dhk dnj dnj dnj dhk dnj dhk dnj dnjs

以上によって、カタカナによるハングル入力を終了する。反復作業により、キーボードの位置関係からハングルの構造と文字の発音を同時期に習得させる。

上記作業の終了したら、日本語の入力作業を行う。まず、開音節であるカタカナの入力を行い、キーボードの位置とハングル入力に慣れさせる。例えば以下のような例文はのちに韓国語の文法を入力する際に重要な問題となる。

①私は 成城大学の 学生です。

watashiwa seijodaigakuno gakuseidesu.  
 ワタシワ セイジョウガクノ ガクセイデス.  
 와타시와 세이조다가쿠노 가쿠세이데스.  
 dhkxktdhk tpdlwhekdhrkzns h rkzntpdleptm.

②今日の 天気は 曇りです。

kyono tenkiwa kumoridesu.  
 キョウノ テンキワ クメリデス.  
 교노 덴키와 구모리데스.  
 rysh epszldhk mahfleptm.

カタカナを入力することでハングル文字に習熟すると同時に、文章構造上の分かち書きの仕方を学んで韓国語の文章の形に慣れる、句ごとに発音が途切れることの習慣を身につけさせる。次に1から10までの漢数字とその韓国読みを入力することで韓国語への接近を図る。この段階では末音法則は触れない。

1	ichi	イチ	이치	dlcl
	Oil	イル	일	dfl
2	ni	ニ	니	sl
	Oi	イー	이	dl
3	san	サン	산	tk
	sam	サム	삼	tka
4	si	シー	시	tl
	sa	サー	사	tk
5	go	ゴー	고	rh
	Oo	オー	오	dh
6	roku	ロク	로쿠	fhxn
	Oyuk	ユク/リュク	육/륙	dbt/fbr
7	sichi	シチ	시치	tlcl
	ch <sup>h</sup> il	チル	칠	clf

8	hachi	ハチ	하치	gkcl
	p <sup>h</sup> al	パッル	팔	vkf
9	kyu	キュー	규	rb
	ku	クー	구	rn
10	ju	ジュー	주	wn
	ship	シプ	십	tlq

以上、PC入力を使用した韓国語学習の初期段階のハングル習得方法について記述した。年間予定カリキュラムとしては、この後、末音法則と11以降の数字の展開法則を学び、いよいよ単語と文法に入るが、紙面の都合上、稿を改める<sup>13)</sup>。最後に韓国語への表記の変化をカタカナから表記する方法についての試案を提示する。PC入力を前提としたものなので、実際の発音と乖離するものも存在する。

【カタカナから考える韓国語の音体系】

①単子音；14個

カ〈가 k/g〉 ナ〈나 n〉 タ〈다 t/d〉 ラ〈라 r/l〉  
 マ〈마 m〉 パ〈마 p/b〉 サ〈사 s〉 ア〈아 a〉  
 チャ〈차 cha/ja〉 チャッ〈차 ch<sup>h</sup> a〉  
 カッ〈카 k<sup>h</sup> a〉 タッ〈타 t<sup>h</sup> a〉 パッ〈파 p<sup>h</sup> a〉 ハ〈하 ha〉

②双子音；5音

ッカ〈까 kka〉 ッタ〈따 tta〉 ッパ〈빠 ppa〉 ッサ〈싸 ssa〉 ッチャ〈차 chcha〉

【破裂音】；14字

カ〈가 k/g〉	タ〈다 t/d〉	パ〈마 p/b〉	サ〈사 s〉	チャ〈차 cha/ja〉
カッ〈카 k <sup>h</sup> a〉	タッ〈타 t <sup>h</sup> a〉	パッ〈파 p <sup>h</sup> a〉		チャッ〈차 ch <sup>h</sup> a〉
ッカ〈까 kka〉	ッタ〈따 tta〉	ッパ〈빠 ppa〉	ッサ〈싸 ssa〉	ッチャ〈차 chcha〉

【表5 性質による分類】

※ 1. 破裂音の特徴として「語頭は濁らない」がある。

2. サ〈사 s〉の濁った音である「ザジズゼゾ」は韓国語には存在しない。その代わりに、チャ〈자 cha/ja〉を語中・語尾において「ジャジイジユジェジョ」を使用する。

【発音上の分類】

1 行目；平音：カ〈가 k/g〉タ〈다 t/d〉パ〈마 p/b〉サ〈사 s〉チャ〈자 cha/ja〉

2 行目；有気音：カッ〈카 k<sup>h</sup> a〉タッ〈타 t<sup>h</sup> a〉パッ〈파 p<sup>h</sup> a〉チャッ〈차 ch<sup>h</sup> a〉

3 行目；濃音：ッカ〈까 kka〉ッタ〈따 tta〉ッパ〈빠 ppa〉ッサ〈싸 ssa〉ッチャ〈차 chcha〉

【末音】：発音上の 7 字

〈破裂音と鼻音の関係として〉

破裂音	ㄱ	ㅌ	ㅋ
鼻音	ㅇ	ㄴ	ㄹ
流音		ㄹ	

☆末音に来ることのできる音（基本的には次の 27 字）の書き分け

【単子音】 14 字：	ㄱ	ㄴ	ㄷ	ㄹ	ㄴ	ㅇ	ㅁ	ㅂ	ㅅ	ㅇ	ㅈ	ㅊ	ㅋ	ㅌ	ㅍ	ㅑ	ㅓ	ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅠ	ㅡ	ㅣ	ㅇ
【双子音】 2 字：	ㄱ	ㅌ																							
【重子音】 11 字：	ㄱ	ㄴ	ㄷ	ㄹ	ㄴ	ㅇ	ㅁ	ㅂ	ㅅ	ㅇ	ㅈ	ㅊ	ㅋ	ㅌ	ㅍ	ㅑ	ㅓ	ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅠ	ㅡ	ㅣ	ㅇ

☆母音の表記上の注意（基本的には単母音・重母音全て書き分ける）

ア <ㅏ>・ヤ <ㅑ>・ㄹ <어>・ㅓ <여>

オ <ㅓ>・ヨ <요>・ウ <우>・ユ <유>

ㄱ <으>・イ <이>

ㅓ <애>・エ <에>・[発音上「ㅓ <애> =エ <에>」]

イ <ㅓ>・イェ <예>・ウァ <와>・ウヱ <왜>・ㄱ <외>・

ウォ <워>・ウヰ <웨>・ウィ <위>・

ㄱ <의> ※詳細な発音については、「反切表の文字と発音」の6-7頁参照。

※原則的に「ウ <ㅓ>・ㄱ <외>・ウヰ <웨>」のそれぞれは全て同じ発音。

## 注

1) 金泰虎、「第2章日本における韓国語教育の諸問題－初級韓国語テキストの文法用語・収録内容・語彙数、そして大学授業・検定試験との関連性を中心に－」（『韓国語教育の理論と実際』、白帝社、2006）、p.30の考えに従い、今次論稿において韓国語の名称を使用する。

2) 小栗章「日本における韓国語教育の現在－大学等の調査に見る現状と課題－」（野間秀樹編『韓国語教育論講座』第1巻、くろしお出版、2007）。

金泰虎、同上、2006、p.37。

3) 野間秀樹「望ましい韓国語の教材とは－日本語話者の場合－（原文韓国語）」1. 対象の種類の問題 2-1 教材の対象 2-1-1 学習者の母語を考慮した教材の提供（The Sixth International Conference of the International Association for Korean Language Education の発表要旨に加筆、Web上で公表されている論稿、1996）、p.3。

<http://www.tufts.ac.jp/ts/personal/nomahideki/baramjighan19.htm>

4) 野間秀樹、同上、「2. 対象の種類の問題 2-1 教材の対象 2-1-2 学習者の学習目的にあった教材の提供」1996、p.3。

5) 野間秀樹、同上、「2. 対象の種類の問題 2-2 教材の種類 2-2-2 学習内容別の教材の提供」1996、p.4-5。

6) 宋喆儀「反切表と伝統時代のハングル教育」（『朝鮮半島のことばと社会－油谷幸利先生還暦記念論文集』明石書店、2009）

7) 宋喆儀、同上、p.474。

8) 現在、PC用有料韓国語ワードプロセッサソフトで、ローマ字入力に便利なソフトは、高電社の Korean Writer 7である。ただ、KWで作成した文書はコンバーターを使用しないと他の文書との互換性に問題がある。高電社は他に Web上でKS ボル2のタイプ



ングソフトを公開している。授業で追いつけない学生に紹介すると便利である。

<http://www.kodensha.jp/webapp/htlesson/>

- 9) 金泰虎、「第 8 章日本語のハングル表記について」(同上、2006)、p.205
- 10) 金珍娥、「韓国語のローマ字表記法」(野間秀樹編『韓国語教育論講座』第 1 巻、くろしお出版、2007)。
- 11) 金珍娥、「韓国語のローマ字表記法」、同上、2007、p.415。
- 12) 熊谷明泰、「朝鮮語辞典におけるカタカナ発音表記」(野間秀樹編『韓国語教育論講座』第 1 巻、くろしお出版、2007)、p.650。
- 13) 申英秀、「PC を使用した韓国語教育法 —第 2 段階におけるハングル入力—」(『学習院女子大学紀要』第 13 号、2011)

### 主要参考文献

姜信沆、『ハングルの成立と歴史』、大修館書店、1993 年。

金泰虎、『韓国語教育の理論と実際』、白帝社、2006 年。

村野井仁、『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』、大修館書店、2006 年。

野間秀樹編、『韓国語教育論講座』第 1 巻、くろしお出版、2007 年。

植山剛行、『英語教育改善のためのプログラム化とマネジメント—すべての学生の英語力向上をめざして—』大学教育出版、2009 年。

油谷幸利先生還暦記念論文集刊行委員会、『朝鮮半島のことばと社会—油谷幸利先生還暦記念論文集』、明石書店、2009 年。